



ゴカイの巣穴中イメージイラスト

ゴカイの仲間

干潟を歩くと、砂が多く堆積した砂質の場所が多くある。

そのような場所の地表をよく観察すると、まるで山のような形の砂盛りが多くある。

この盛り上がった砂の正体は、ゴカイの糞である。この砂盛りの下に、魚釣りのエサになるゴカイがすんでいるのである。

写真の右横に、巣穴内でのゴカイの様子をイメージしたイラストを掲載した。

地中では、このイラストのようにゴカイはU字の形になって、石灰化した管の中（棲管と呼ぶ）で生活している。

砂が盛り上がった方はゴカイのおしり側であり、口側は逆にすり鉢のようにへこんでいる。この口側から、海水とともにプランクトンなどの栄養分を体に吸収して、いらぬ砂などを海水とともにおしりから排泄している。

泡瀬干潟には、様々な大きさの砂盛りやすり鉢状の穴が観察されるが、おそらく大小様々な大きさのゴカイが地中にすんでいる。ゴカイは干潟にある有機物などをエサとし、きれいな砂を体外に排泄しているため、干潟の浄化に貢献している生き物の一つである。このゴカイの仲間たちは、多く飛来する鳥などの格好のエサにもなっている。自然は、たいへんよくバランスがとれている。

